

第6回奈良のお薬師さん大賞 被表彰者

◇ ^{くぼた} ^{ちよみ} 久保田 千代美さん (Chiyomi Kubota Care 研究所暮らしの保健室なら 看護師)



昭和57年に看護師になる。平成8年より奈良に在住し、地域の在宅医療・介護に関わり、全国ネットワークからの新しい情報を発信しています。令和元年からは、医療や介護に繋げる「暮らしの保健室なら」を開設し、「いのちの授業」など地域における看取りに関する学習を、専門職と子どもからおとなまでに行っています。在宅医療の推進にも尽力されており、地域の人々の幸せを考え、人々を結びつける地域づくりに貢献されています。

◇ ^{ふくおか} ^{あつひこ} 福岡 篤彦 さん (南和広域医療企業団吉野病院 院長)



平成4年から、地域の診療に関わり、南和広域医療企業団移行後の現在でも、在宅支援病院として退院後の患者への訪問診療を積極的に行うなど、地域医療の最前線で取組を行っています。また、「笑い」を健康の維持・増進に取り入れるため、「わろてんか隊」を結成し、生き生き百歳体操に笑いを加えた「ケラケラ百歳体操」を地域に広める活動をしており、吉野病院内でも、1~2か月に笑いクラブ「笑いヨガ」の普及啓発を継続しています。

◇ ^{なら} ^{じじょく} ^{へや} 奈良自助具の部屋 (ボランティアグループ)



平成5年にグループを設立し、肢体不自由者などが、社会生活をより便利に、より安易に送ることができるように、日常生活の動作を手助けする自助具の普及・啓発に取り組んでおられます。県福祉住宅体験館において、定期的に自助具製作の体験講座を開催されるのみならず、県内の病院や老人ホーム、役場等に赴き、自助具の製作・相談・指導・展示・情報提供などを行い、肢体不自由者などのよりよい暮らしの実現に貢献されています。

(個人団体、五十音順)